

井上 逸兵氏



牧野 真貴氏



江畑 明宏氏



英語がもたらした
私のターニングポイント
レッドブル・エアレース・パイロット
室屋 義秀さん p8



ユナイテッド・ワールド・カレッジ
ISAKジャパン p12



特集

英語学習初・中級者育成 への取り組み

p2

慶應義塾大学文学部 教授 井上 逸兵氏

p4

近畿大学法学部 講師 牧野 真貴氏

p6

彌榮自動車 人事部 人事課 江畑 明宏氏

英語学習初・中級者育成への取り組み

特集

グローバル社会で活躍する人材を数多く育成していくには、英語力の全体的な底上げが欠かせません。そのためにも、英語学習初・中級者たちの4技能を高めていくことが重要になってきます。本特集では、大学や企業において英語教育を手掛けられている御三方に話を伺いながら、英語学習初・中級者の4技能を向上していくためのポイントや、具体的な育成法などを探求していきます。

outline

英語を身に付ける目的を明確にして 成功体験を積み重ね意欲を高める

慶應義塾大学文学部 教授 いのうえ いっぺい 井上 逸兵氏

英語学や社会言語学を専門とする慶應義塾大学文学部教授の井上逸兵氏は、大学で教鞭を執る一方、楽しみながら初級者でも英語に触れやすいテレビ番組『おもてなしの基礎英語』（NHK Eテレ）の講師としても活躍されています。英語の初・中級者を育成する際、何から始めればいいのか、また学習者のモチベーションを高めながら進めていくにはどのような方法が効果的なのか、井上氏に話を伺いました。

大学や企業が一押しすれば 一気に英語力が伸びる可能性がある

日本人は英語に苦手意識を抱いている人が多いと言われています。その原因として、高等学校までの英語教育の在り方を批判する人がいますが、私たちが中学・高等学校で学んできた英語は、決してムダではないと私は考えています。

多くの人が英語を十全に使いこなせることができず、初・中級者レベルにとどまっているのは、英語教育の内容に問題があるのではなく、時間数が足りないことに起因しています。

従来の中学・高等学校の英語教育は、文法に重きを置いていました。本来は一定のレベルまで文法を習得したら、次はそのスキルを活用しながら、コミュニケーション能力の向上を図ることに力を注ぐべきですが、授業時数が足りず時間切れで終わっていました。そのため「中学・高等学校で6年間英語を勉強しても、全然話せるようにならない」といった批判がなされてきたのです。

この反省から、現在の中学・高等学校での英語教育は、「聞く」「読む」「話す」「書く」の4技能をバランスよく身に付けることを目的としたものへと変わりつつあります。確かに今の若い人たちを見ると、話す力や聞く力は、先行世代と比べてかなり

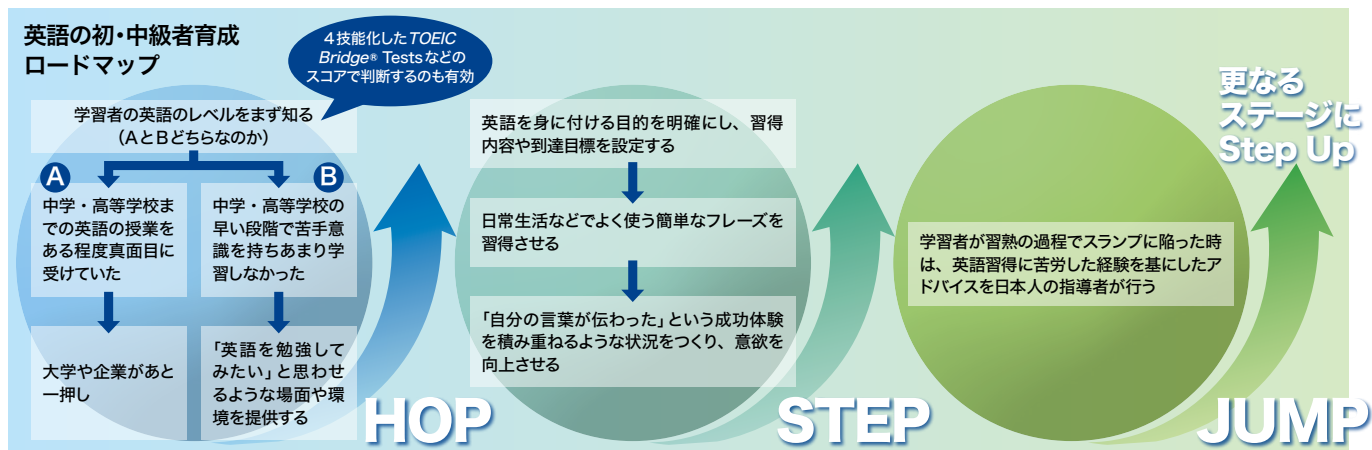
伸びていると思う反面、読む力や書く力は落ちていないかと感じることがあります。やはり授業時数が足りないために、「話す」「聞く」に多くの時間を割いたぶん、「読む」「書く」が手薄になっているのだと思います。

逆に言えば、多くの人が初・中級者レベルであるのは、英語を勉強する時間数が足りないだけで、中学・高等学校までの授業をある程度真面目に受けた方であれば、既に英語のベースはできていると言えます。このような方に対しては、大学や企業があと一押しすれば英語力が一気に伸びる可能性があります。

中には、中学・高等学校の早い段階で英語に強い苦手意識を抱き、あまり勉強しなかったためベースができていない方もいます。このような方には「自分も再び英語を勉強してみたい」「自分でもできそうだ」と思ってもらえる場面や環境を、いかに提供できるかがカギとなります。

英語を身に付ける目的が異なれば 勉強する内容やゴールも変わる

では初・中級者に対して、具体的にどのような英語教育が必要なのでしょうか。特に社会人向けの英語教育で重要になるのは、「何のために英語を身に付けるのか」という目的を明確にす



ることです。目的が異なれば、当然学ぶべき英語の内容や、設定するゴールも変わってきます。

分かりやすい例に、キャビンアテンダント（以下、CA）の英語教育があります。CAの場合、機内で英語が必要になる場面はある程度限定されています。それらの場面で求められる英語力を身に付ければ、業務に支障をきたすことはあまりありません。必ずしも総合的に高いレベルで習得する必要はないのです。

この点はほかの職業も同様です。「それぞれの業種や職種、部署では、どんな場面でどのような英語を使うことが多いのか、求められる英語力はどの程度か」などを明確にした上で、現場に即した習得内容や到達目標を設定します。これにより身に付ける英語がより仕事に直結したものとなり、学習者の意欲を喚起することにもつながります。

また、実際に初・中級者に対して研修などを実施していく際、講師が教壇に立ち、一方的に知識を伝授するといった方法は、既に限界が来ていると感じています。今の時代は、インターネットやSNSの普及によって、双方向でやりとりしながら情報を得ていくというスタイルが一般的です。現代人にとって一方通行の講義は、苦痛以外の何者でもありません。最近、中学・高等学校では、アクティブラーニングといって、授業の中にグループワークやペアワーク、ディスカッションなどが取り入れられるようになりましたが、これも時代の変化に対応したものとと言えるでしょう。

「言葉が通じた」という喜びが

初・中級者の意欲を高める

英語に苦手意識を抱いている初・中級者に対しては、勉強に向き合う心理的なハードルを下げるのが大切です。

例えば、「聞き流すだけで英語ができるようになる」というキャッチフレーズをよく耳にしますが、現実的にはそれだけで英語ができるようにはなりません。しかし「とりあえず聞くとこるから始めてもいい」というメッセージは、初・中級者に英語習得の入り口を提供する上において有効です。入りやすいところから入ってもらい、次第に難度を上げていけばいいのです。

日常生活や仕事の場面でよく使うフレーズを覚えることから始めるといった方法も効果的です。イタリアやイギリスでもブ

レーした元サッカー選手の中田英寿さんは、英語やイタリア語が堪能であることで知られていますが、まず現地での生活やサッカーの試合中に必要となるフレーズを習得し、その上で文法の勉強を本格的に開始したと言われています。

簡単なフレーズを覚えることで、現地の人とのコミュニケーションが可能になります。「自分の言葉が伝わった」というのは、初・中級者にとって大きな喜びであり、こうした成功体験が英語と向き合う姿勢を前向きなものにさせます。

その点、私が有効であると考えているのがオンライン英会話です。オンライン英会話は、完全な1対1の個別での会話ですから、学習者のレベルに合わせたやりとりの中で、「自分の英語が相手に伝わった」という成功体験を積み重ねることができません。双方向性が求められる時代のニーズにも合致しています。

ただし、こうして初・中級者が英語の習得に意欲的に取り組み始めたとしても、習熟の過程でスランプの時期が訪れることがあるものです。その際に重要な役割を担うのが日本人の指導者です。英語を母国語としない日本人の場合、皆さん英語習得に苦労した経験をお持ちです。自身がつまずき、それを克服した経験があるからこそ、学習者に有用なアドバイスを送ることができます。

もちろん、豊富な英語表現や発音など、ネイティブなどの指導者のほうが得意であることは事実です。しかし状況によっては、ネイティブだからいいとは限らないことがあることも、念頭においていたほうがいいでしょう。



苦手意識を取り払い意欲と学力を高める 英語リメディアル教育

近畿大学法学部 講師 **牧野 眞貴**氏

授業を受けるために必要な基礎学力を補うため、リメディアル教育を行う大学が増えつつあります。英語リメディアル教育とはどのようなものなのか、また、生徒の英語の苦手意識を取り払いながら学習意欲を高め、英語力を向上させるために実施している具体的な授業内容について、これまで複数の大学において、その研究と実践を行われてきた、近畿大学法学部講師の牧野眞貴氏に話を伺いました。

まずは学ぶ楽しさ できる喜びを体感させる

近年、リメディアル教育を実施する大学が増えています。リメディアル教育とは、大学の授業を受けるために必要な基礎学力が不足している学生を対象に、その大学が求めるレベルにまで、学力を引き上げる目的で行う教育のことです。最近では多くの大学で、学力試験を必要としない推薦入試やAO入試で入学してくる学生が増えているため、同じ大学・学部・学科内でも、学力層の多様化が顕著になっています。これがリメディアル教育の必要性が高まってきている主な要因になっているのです。

近畿大学法学部講師の牧野眞貴氏は、英語リメディアル教育の授業に臨む上で重視していることを次のように話します。

「リメディアル教育の対象になる学生には、英語に対して強い苦手意識を抱き、学習意欲を失っているケースが多く見受けられます。そうした学生に、高等学校までの基礎を詰め込み式で教えようとすると、更に学習意欲を減退させることになりま

す。まずは英語を学ぶ楽しさや、できる喜びを体感してもらい、意識を変えていくことに注力しています」

アクティビティを 授業の中に数多く導入する

牧野氏には、かつて1歳児から小学校6年生までを対象とした、児童英語の研究と実践に携わってきた経歴があります。児童英語では、子どもが飽きずに楽しく英語を学べるように、ゲームをしたり歌ったりといったアクティビティを数多く取り入れています。こうした活動を楽しんでいるのは、実は大学生や大人も同じです。

そこで牧野氏は、90分の授業の中に必ずアクティビティの時間を導入しています。例えば発音トレーニングでは、学生にペアを組ませ、発音と口の動きをスマートフォンでお互いに撮影させ合います。そしてできている点と改善点を指摘し合い、更に練習を重ねていきます。練習前と練習後の映像を見比べることで、学生は自身の発音スキルの上達を確認できます。楽しみながら、「自分もやればできる」という実感が持てるのです。

またリスニングでは学生たちに洋楽を聞かせて、チーム対抗戦で歌詞の聞き取りクイズを実施。ゲーム性が入ると、学生たちは夢中になって取り組み始めます。これをきっかけに洋楽に興味を持ち、リスニング力が向上する学生も多いといいます。

こうした活動に前向きに取り組ませるためには、間違えることに対する学生の心理的な抵抗感を減らす場づくりや、関係性づくりが大切になります。

「みんなの前で間違えた答えを言ったら恥ずかしい、バカにされる、などと思うと、学生は活動に対して消極的になります。そこで学生には、『ここは間違ってもいい場所だよ。間違えることから学んでいこうね』というメッセージを発信するようにしています」

また教員と学生がニックネームで呼び合うなど、心理的距離を近づけるための工夫もしています。一方で、私語の禁止を徹底するなど、教室は楽しみながらも英語を真剣に学ぶ場であることを、学生たちに意識させることを大切にしています。

英語に対して学習意欲を 高める主な要因

- 教師が信頼できる
- 勉強する方法が分かる
- メリハリのある授業
- 授業で学んでいることが将来役立つ
- 自分がしたいと思っていることを授業で行う機会がある
- 学習する目標が分かる

など

逆に学習意欲を削ぐ要因としては、「中学・高等学校の学習内容のやり直しをする」「小テストが多いと感じる」「中学・高等学校と同じ授業方法で英語の授業が行われる」などがあります。

また、希望する英語学習の内容(学びたい順)は「リスニングとスピーキング」「リーディングとライティング」「単語と文法」。

出所：「英語リメディアル教育を必要とする大学生を対象とした英語学習意識調査」(牧野 眞貴、平野 順也)

「私の授業の特長は、一斉授業を行う時間が少なく、グループワークに多くを割いていることです。これが可能なのも、場づくりや関係性づくりができてきているからです。グループワークでは、学生の性格や人間関係をよく観察した上でグループ分けを行い、自分の学習やチームに対する責任を持たせるために、毎回リーダーを入れ替えています」

こうして「英語を学ぶのは楽しい」「自分もやればできる」という意識を学生たちの中に育んだ上で、英語力向上のための具体的な目標として設定しているのが、TOEIC® Listening & Reading Test (以下、TOEIC® L&R) です。「大学における英語教育の成果の全てをTOEIC® L&Rで測れるわけではありませんが、学生にとっては、自分の英語力の到達点を知るための目安になります」と牧野氏は言います。

TOEIC® L&Rの問題集に取り組む際に牧野氏が重視しているのは、振り返りの機会を数多く持たせることです。成績下位層の学生ほどテストの点数ばかりに目が行きがちで、どの問題をなぜ間違えたのかをしっかりと振り返り、対策を練ることを怠ってしまうといいます。そこで牧野氏は、間違えた箇所の英文を何度も暗唱させるなど、確実な英語力の定着を図っています。

学生の意欲と学力を伸ばす指導法の共有化が求められる

牧野氏が目指しているのは、「英語を好きになり、大学を卒業してからもずっと英語を学び続けたい」と思ってもらえる学生を、1人でも多く育てることです。学びたいという意欲が、英語力向上の一番のエンジンになるからです。

ある学生は牧野氏の授業を受けるうちに英語や異文化に興味を抱くようになり、1年間のリメディアル授業の最後に、「海外に留学したくなった」という感想を書いてくれました。その半年後、たまたま牧野氏が駅から大学までの道でその学生に出会った時、学生がイヤホンで聴いていたのは英語の教材でした。英語に対して変わらない意欲を持ち続けていたことが、牧野氏はうれしかったそうです。

英語への学習意欲や自信を無くしている初級者に対しては、いかに教員が適切な支援を行えるかがカギとなります。教員には、英語が苦手な学生の心理に配慮し、適切な学習量・難易度・進み具合を見極めながら、楽しく英語学習に取り組んでもらえるための工夫が求められると、牧野氏は考えています。

「リメディアル教育に関する研究や実践はまだ歴史が浅く、教員によって授業のやり方が大きく異なっているのが現状で



す。学生の意欲と学力を伸ばす指導法の開発と、その共有化を図っていくことが、今後とても大切になってきます」

牧野氏ご自身も、リメディアル教育の向上のために、自らの研究と実践成果を学会などで精力的に発表しています。

リメディアル学生の学習意欲を低下させる英語教師の主な特徴

- 学生に授業を理解させようという熱意が感じられない
- 学生に授業についていけないと感じさせる
- 学生に興味を示さない
- 退屈な授業をする
- 英語が苦手な学習者の心理に配慮しない

出所：「英語リメディアル教育における教師に起因する学習意欲低下についての研究、リメディアル教育研究、2018」(牧野 眞貴)

リメディアル学生にとって理想の英語教師

- 学生を理解させるために丁寧な授業をする
- 学生の自己効力感が高まる学習量、難易度、進度を見極めることができる
- 英語学習が楽しくなる工夫のある授業をする
- 常に学生を意識して一人ひとりに目を向けながら授業をする
- 包容力がある
- 快活である

出所：「英語リメディアル教育を必要とする大学生が考える理想の英語教師、リメディアル教育研究、2015」(牧野 眞貴)

自発的な行動を促す環境をつくり 全社的な英語力アップを目指す

彌榮自動車株式会社 人事部 人事課 え ば た あ き ひ る 江畑 明宏氏

創業から100年以上の歴史を持つ彌榮自動車株式会社は、地元の方たちや観光客から、国賓や要人に至るまでの送迎を行う、京都府において業界大手のタクシー・ハイヤー会社です。現在、訪日外国人旅行者の増加といったビジネス環境の変化に対応すべく、全社的に英語力を底上げする取り組みを行っています。自発的に乗務員たちの学習意欲が向上するための環境づくりや、それによる変化について、同社人事部人事課の江畑明宏氏に話を伺いました。

外国人の利用客が増加し

日常業務で求められる英語での対応

京都市に本社を構える彌榮自動車株式会社は、創業100年を越え、京都府において長い歴史を持つ業界大手のタクシー・ハイヤー会社です。地元住民や法人、観光客はもちろんのこと、国際会議などで京都を訪れた国賓や要人の送迎も行っています。またバス事業や自動車販売事業、不動産事業なども手掛けている、ヤサカグループ17社の基幹会社でもあります。

現在、京都でも訪日外国人旅行者が増えており、多くの外国人客がタクシーやハイヤーを利用するため、英語での対応を求められる場面が、日常業務の中で頻繁に発生しています。

同社人事部人事課の江畑明宏氏は、「世界経済がリーマンショックから立ち直った頃から、京都を訪れる外国人旅行者が増えてきていると実感するようになりました。中国や韓国、欧米系のお客だけでなく、東南アジアからのお客も増えているのが近年の傾向です」と話します。

国賓にも英語を使って対応できる

レベルの高い乗務員を増やしたい

そのような中、乗務員と外国人客が、行き先確認ぐらいの簡単な英会話を行うことができる「指差しシート」を導入するな



洗車・清掃を行い出庫に備える彌榮自動車のタクシー

ど、京都のタクシー業界においても対策を講じてきたそうです。しかし同社では、「更に高いレベルでの対応を目指す必要がある」と考えたのです。

「現在当社では、一定の英語力を有する乗務員を『英会話ドライバー』として認定し、外国人の乗客の送迎や観光タクシーを担当してもらっています。観光タクシーの場合、1日から数日にわたり、外国人のお客様を英語で案内することになります。また各国の国賓や要人が京都を訪れた際、その送迎を担うこともあります。このような場面で、英語を用いたコミュニケーションがしっかりと取れる乗務員を増やしていきたいと考えたのです。またそこまで英語力は高くなくても、街中で外国人客をお乗せした時に、英語で基本的な意思疎通ができる乗務員の育成を図りたいという思いもありました」

そこで同社は、乗務員たちの英語力向上を図るため、2015年にTOEIC® Listening & Reading Test (以下、TOEIC® L&R)を実施。更に、英語学習初・中級者が気軽にチャレンジすることができるものとして、2017年にTOEIC Bridge® Test[※]を導入しました。

またこれらのテストのスコアを指標として、個々の乗務員に、実際どの程度の英語力があるのか、客観的に把握をしたいという狙いもあったそうです。





英語で話しながら外国人客を観光案内する同社乗務員



彌榮自動車株式会社の本社外観

英語力アップの取り組みを 乗務員の意識変革に結びつける

現在同社では、有志の乗務員が、月1回の頻度で英会話に関する勉強会を開催しています。同会では、参加者が観光タクシーの乗務員役と外国人乗客役とに分かれ、乗務員役が京都の名所旧跡を案内しているといった想定の下、全て英語でやりとりをしていきます。そして場面ごとに、適切な英語表現についてお互いアドバイスをし合うという、より実践的な内容になっています。

また「天皇と将軍の違いは何か」「なぜ店の前に盛り塩をしているのか」など、外国人旅行者が日本の文化などに関して抱きがちな疑問に対して、「英語でどのように答えればいいのか」というような情報交換もこの場で行われています。

更に、TOEIC® L&RやTOEIC Bridge® Listening & Reading Testsの受験直前期には、元塾講師の社員による勉強会も開催しています。

勉強会への参加やTOEIC® Programの受験は、あくまでも自由参加にしています。義務化しないのは、「乗務員の自発的な行動を期待しているから」と江畑氏は話します。

「当社としては英語力だけでなく、観光知識や接客マナーも含めて、自ら意欲的に自己の能力を高めようとしている乗務員を育成したいと考えています。このような乗務員が増えれば、『彌榮の乗務員はレベルが高い』という社会的評価が高まり、重要な仕事を発注していただく機会が増えていきます。するとやりがいのある仕事を求めて、より意識の高い乗務員が当社に入社するようになり、先輩の乗務員もその刺激を受けて意識が変わっていく。そうした相乗効果を狙っています」

既にその効果は現れつつあります。最近では、「得意の英語力を生かしたい」という理由で入社してくる乗務員が増えてきたそうです。

またある乗務員は、TOEIC® L&Rを受験したところ、500点台だったことにショックを受けて一念発起。勉強を重ね半年後に受験した時には、850点にまでスコアを伸ばしました。更には、京都に特化した通訳案内士「京都市認定通訳ガイド(京都市・宇治市・大津市地域通訳案内士)」の資格も取得。今では英会話ドライバーとして、やりがいを持って第一線で活躍しています。

彌榮自動車では、乗務員の英語力を向上する取り組みを通じて、社員の業務に対する意識改革へつなげていきたいと考えています。



警察車両が先導する中、外国要人の送迎を行う同社の車両(写真左から2台目)



英語がもたらした私のターニングポイント 第6回

自分の意思をハッキリ伝える 英語は下手でもとにかく話す

レッドブル・エアレース・パイロットとして世界を舞台に活躍する室屋義秀さん。

学生時代は英語が苦手だったそうですが、必要に迫られ独学で勉強を重ね、

今では外国人スタッフなどと問題なくコミュニケーションができるように。

拠点にしている福島の実況を海外に伝えるなど、英語での情報発信にも積極的になったそうです。

● ホテルのチェックインすら かつては苦労していた

最高時速370kmの小型プロペラ機で規定のコースを飛び、操縦技術の正確さとタイムを競う「レッドブル・エアレース」のパイロットをしています。現在は世界のトップパイロットたちが集まる「Red Bull Air Race World Championship」に参戦し、各国のレースを転戦。2017年には総合優勝を果たしました。今年も開幕戦で優勝し、好スタートを切っています。

エアレースをする上で、英語は欠かすことができません。日本人にはなじみの少ない競技なので、チームコーディネーターやフライト解析を行うタクティシャン、レースエンジニアな

ど、チームメンバーは皆、外国人。運営側とのコミュニケーションや海外メディアの記者会見も、英語ができないと話になりません。

今でこそ、チームメンバーや海外メディアの方と問題なく英語で話していますが、以前は全く得意ではありませんでした。

小学生の頃からパイロットに憧れ、高校生ぐらいから本気で目指し始め、その方法などを調べる中で、パイロットは英語習得が不可欠だと分かっていたのですが、まるで勉強していなかった。高校生の時、英検3級に落ちたぐらいです(笑)。

ですから、大学時代に小型飛行機の操縦免許を取ろうと渡米した時は、ホテルのチェックインや料理の注文すらできません

● レッドブル・エアレース・パイロット 室屋義秀さん

Profile

むるや・よしひで
1973年生まれ。レッドブル・エアレース・パイロット。18歳から大学のグライダー部で飛行訓練を開始し、20歳の時に渡米してパイロットライセンスを取得。2009年より「Red Bull Air Race World Championship」に参戦し、16年千葉大会で初優勝。17年のシリーズではアジア人初の年間総合優勝を果たす。現在、国内では、レース以外にもエアショーの実施や子ども向けの航空教室を開催するなど、精力的に活動している。

でした。幸い、学科試験は選択式だったので最低限の勉強で何とかりましたが……。大学卒業後、アメリカで曲技飛行の訓練をして大会に出場したり、諸外国でエアショーに出たりする中で、多少は英語で意思疎通ができるようになりましたが、「通じればいい」という感覚だったので、本気では勉強しませんでした。

「下手でもいいからどんどん話せ」

と言われたワケは？

しかし2006年に、日本でレッドブルが開催したフライトイベントの運営を手伝った時、「真剣に英語を学ばないとマズい」と感じました。スポンサーもスタッフもほぼ外国人で、日本人は自分だけ。契約も打ち合わせも指示も、英語で正確に行わなければならない、「通じればいい」では済まされませんでした。さらに、翌年から、レッドブルが私のスポンサーとなり、海外のレースなどに参加するようになると、全ての会話が英語に。そこから、真剣に英語力向上に取り組むようになりました。

そのために私が実践したのは、「ほかの人のマネをする」こと。相手が話しているのを聞き、見えそうな表現があったら、「この表現はどういう意味？」といちいち尋ねたのです。ほかのパイロットのインタビューにも耳を傾け、使えるフレーズを探しました。

そして、とにかく話しまくりました。聞き返されることは日常茶飯事でしたが、「もう1回説明しよう」と何度でも話し直しました。実は、以前は英語を話すのに消極的だったのですが、「下手でもいいから、どんどん話すべき」と複数のパイロットや仲間からアドバイスされ、考えを改めたのです。

下手でもどんどん話すべき理由は、英語力の向上だけではありません。自分の意見をしっかり主張しないと、トラブルが起こるからです。外国人は文化も考え方も全く異なりますから、自分と同じ価値観だろうと思っていると、想定外の事態が発生することがあります。例えば、チームメンバーにブラジル人がいるのですが、レースの途中に国に帰ると言い出したことがありました。理由は、「リオのカーニバルを見たいから」。普通、仕事を優先するだろうと言ったのですが、「契約書に書いていない」と本当に帰ってしまいました(笑)。



室屋さんが優勝を果たしたRed Bull Air Race World Championship 2019年シリーズ開幕戦の飛行の様子 ©Andreas Schaad/Red Bull Content Pool



Red Bull Air Race World Championshipの出場者たちと歓談する室屋さん(写真右から2人目) ©Predrag Vuckovic/Red Bull Content Pool

こういうトラブルを防ぐためには、英語が苦手などと言わずに、何でも明確に意思表示をしないといけない。ほかのパイロットやチームメンバーも、完璧な英語ではなくても、人の話を遮るようにして話しています。それを見て、私も積極的に話すようになったのです。

外国人とやり取りする中で気付いたのは、英語のうまさよりも、「自分の考えをハッキリと持つこと」が大事だということです。意味があやふやだと、英語がペラペラでも誰も理解してくれませんが、意思が明確なら多少拙くても通じるものです。

頑張っていれば

ある日、突然、扉が開く

英語力が向上したことで、海外メディアの記者会見で話せる内容も増えていきました。近年は、天空の飛行場と称される拠点の「ふくしまスカイパーク」がある福島を現意識的に話すようにしています。海外では、原発事故によって人が住めない場所だと勘違いされていることもありますが、ほとんどの地域では普通に暮らせている。そういう現状を正しく伝えることが、復興の後押しになると考えています。

様々な情報を発信しているうちに、「もっといろいろなことを伝えたい」という欲が出てきました。そこで、数カ月前から、人生初の英会話レッスンを受け始めました。週1回1時間ですが、文法を正してもらえたり、語彙を増やせたり、と有意義です。

とにかく忙しいので、時間を割くのも一苦勞。若くて時間があつた時に、英語を身に付けておけば良かったと痛切に思います。もしも昔の自分に何か伝えられるとしたら、「高校卒業までに英語ぐらいしゃべれるようになっておけよ」と言いますね。

英語を学び、言葉の壁がなくなると、人生の選択肢や見えてくる世界がぐっと広がります。勉強し始めた当初は、成果が上がらず、つまらないかもしれませんが、基礎ができると会話がスムーズになり、面白くなってきます。頑張っていれば必ず扉は開くので、その瞬間を夢見て、是非皆さんもトライしてみてください。

ETSの協力を得て制作した あらゆるニーズに対応する公式教材

IIBCは、『TOEIC Bridge® 公式ガイドブック』『公式 TOEIC® Listening & Reading 問題集5』『TOEIC® Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック』の新刊3冊を発売しました。

これらは、TOEIC® Programの開発・制作を行っている、アメリカの非営利団体 Educational Testing Service (以下、ETS)の協力を得て制作した、「公式」の教材・問題集です。

出題問題はもちろん、解答例もETSが提供。そのため、英語学習に取り組みながら、本番を模擬体験できる内容になっています。また解説は、日本人の学習者視点に立った分かりやすい内容を心掛けました。

テストのためだけでなく、仕事や日常生活においても活用できる実用的な英語力の向上に、是非お役立てください。



新刊の編集を担当した、IIBC事業開発本部 教材事業ユニット 出版企画チームのメンバー。左から順に、谷向、桑島、俵(編集主幹)、谷川

公式教材の詳細はIIBC公式サイトをご確認ください。

<https://www.iibc-global.org/publication.html>

4技能となったTOEIC Bridge® Tests初めての公式ガイドブック

『TOEIC Bridge® 公式ガイドブック』

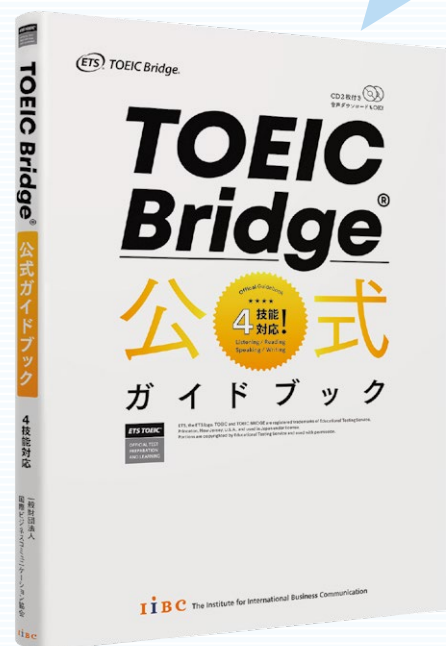
TOEIC Bridge® Testsは、2019年6月よりTOEIC Bridge® Speaking & Writing Testsが加わり、4技能を測ることができるようになりました。本書は、4技能化したテストに対応する、初めての公式ガイドブックです。

当ガイドブックには「問題形式の紹介」と「サンプル問題」が掲載されているため、受験時にどのような問題をどういった流れで解くことになるのかをつかむことができます。更に本番と同じ問題数の「実践テスト」も収録していますので、試験当日と同じ感覚で取り組むことができます。

実践テストを行った後に答え合わせをすれば、おおよそのスコアを把握できますが、それで終わりにするのではなく、「解説」や「解答例」を参考にしながら何度も復習すると、英語力を効果的に身に付けていくことが可能です。

また、スピーキングやライティングのテストでは「文法的に正しい完全な英語を使えるようにならないといけない」と考えられる方が多いと思いますが、解説や解答例を読むと、TOEIC Bridge® Testsでは、文法的な間違いが多少あっても、大意を相手に伝えることができているのであれば大丈夫であることが分かるはずです。本書を通じて、TOEIC Bridge® Testsの評価や採点の観点についても理解できる構成になっています。

初・中級者向けの
TOEIC Bridge® Testsを
受験する方に



定価：本体 2,000円+税
B5判、288ページ、音声CD2枚付き、音声ダウンロード可
発売日：2019年4月23日

スマートフォンなどにダウンロードできる特典音声を新たに追加

『公式 TOEIC® Listening & Reading 問題集 5』

TOEIC® L&Rの本番と
同じテストを体験したい方に

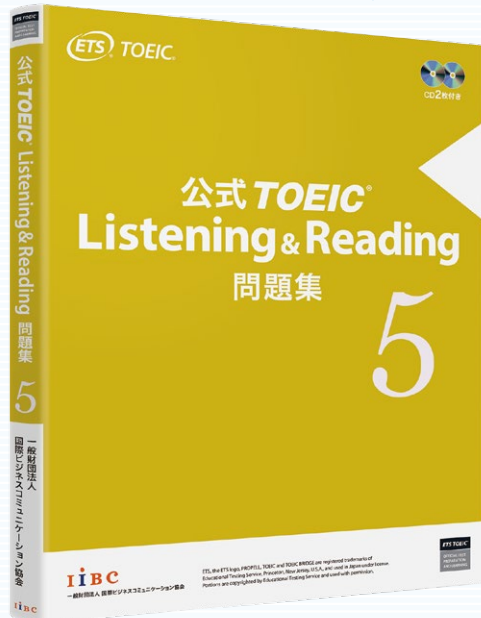
本書は、TOEIC® L&R®の受験準備用公式問題集シリーズの最新版です。サンプル問題のほか、本番と同じ数のテスト問題を2セット収録しており、受験準備をするための最適な1冊となっています。

リスニングセクションについては、付属CDの音声指定サイトからスマートフォンなどにダウンロードでき、手軽に聞くことが可能。また、この音声は本番のテストの録音も務める公式スピーカーが担当しているため、本番同様の感覚を体験することができます。

更に、今回の最新版から、リーディングセクションの問題文 (Part 5・6・7) の音声を収録 (ダウンロード可)。リーディングセクションの音声を聞きながら問題文を読めば、速読力を身に付けることにつながります。また、リスニングセクションについても、聞き取れなかった問題をスクリプトや訳を参考にして何度も聞き直すと、理解度が増し、効果的に学習できます。

そのほか、重要な語句や役立つ表現を取り上げた「Words & Phrases」や「Expressions」も掲載しており、テスト準備に役立つだけでなく、実際のビジネスシーンで生かすこともできます。

本書に加え、既刊の問題集シリーズの1～4を合わせて活用すれば、本番のテストと同じクオリティーの問題により多く触れることができ、万全な準備が可能になります。



定価：3,000円+税
A4変型判、本誌112ページ・別冊「解答・解説」200ページ、
音声CD2枚付き、音声ダウンロード可
発売日：2019年6月25日

隙間時間に英単語を勉強できるコンパクトサイズの公式ボキャブラリー教材

『TOEIC® Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック』

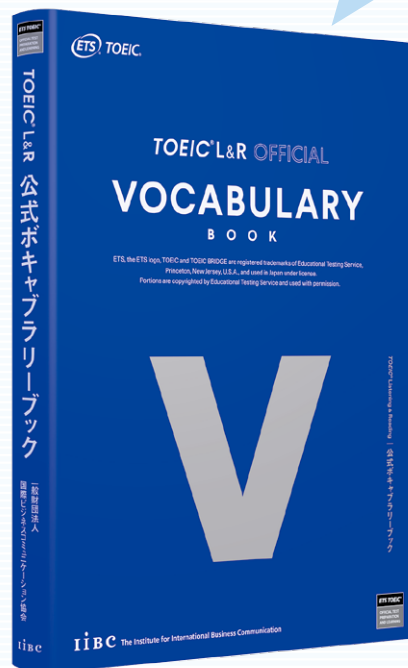
TOEIC® L&Rに頻出の単語を
重点的に勉強したい方に

電車に乗っている時などの隙間時間を利用して、気軽に英単語の勉強がしたい——。そのようなニーズに応え刊行したのが本書です。コンパクトサイズのため持ち運びが便利で、スマートフォンなどに音声をダウンロードでき、単語の発音や例文の音読を聞きながら、気軽に語彙力を高めることが可能です。

収録している単語は、TOEIC® L&Rの過去の問題の中から、頻出の1,000語を厳選したものです。全ての単語に出題のままの文を例文として掲載しており、ビジネスなどで役立つ実践的な表現を身に付けることができます。

オススメの活用方法としては、『公式 TOEIC® Listening & Reading 問題集』シリーズと本書を組み合わせた学習です。隙間時間には本書を活用して頻出単語をインプットし、まとまった時間が取れる時には公式問題集に取り組むといったように、シーンによって使い分けると効果的です。

またIIBCでは、語彙力強化のための練習問題が充実している『TOEIC® テスト 公式問題で学ぶボキャブラリー』も刊行していますので、単語を使う場面や文脈を自宅ですっかり勉強する時にはこの既刊本を利用し、外出時は本書を使用すると、効果的に語彙の学習をすることができます。



定価：1,400円+税
B6判、272ページ、赤シート、音声ダウンロード付き
発売日：2019年6月25日

未来への希望を抱きながら グローバルリーダーを目指す高校生を支援

IIBCは、あらゆる境界を越えて世界で活躍する人材の育成を支援するため、グローバル人材育成プログラムに力をいれています。地球を舞台に活躍するリーダーを招いたイベントの開催や、グローバル社会で成功を収めた方の生の声や人材育成に関する記事の発信などを行っています。未来への希望を抱き、グローバルリーダーを目指す若い学生たちのサポートも積極的に行っており、この度、長野県の軽井沢町にある、学校法人ユナイテッド・ワールド・カレッジISAK^{アイザック}ジャパン（以下、UWC ISAK。代表理事 小林りん氏）で学ぶ高校生を支援することになりました。

高校生を育成する取り組みに賛同

UWC ISAKは、創設者でもある小林りん氏が代表理事を務め、2014年に開校した全寮制のインターナショナルスクールです。「自ら成長し続け、新たなフロンティアに挑み、共に時代を創っていくチェンジメーカーを育む」ことをミッションに掲げています。

日本初の国際バカロレア機構^{※1}の認定校で、文部科学省認定の高等学校でもある同校では、日本を含めた世界73の国と地域から190名（2019年6月現在）の生徒が集まっています。そのうちの2人、カナダ出身のLucy Dabbsさんと、ペルー出身のKarina Brunella Tipismana Urbanoさんが、Global Citizens Initiative（以下、GCI）^{※2}が開催する「2019年度 GCIフェローシップ」のフェローとして見事選ばれ、参加することになりました。

GCIフェローシップは、グローバルリーダーへと成長していくために必要な思考力や能力、倫理観などの育成を支援するプログラムで、世界中から選抜された高校生28名に対して実施されます。フェローは、夏に東京で開催されるサミット（アカデミック合宿）に参加した後、SDGsに基づきグローバルな視野で各自の地域にある課題を解決する取り組み「グローバル・サービス・プロジェクト」を9カ月間継続して実践していきます。

IIBCは、UWC ISAKのミッションや、GCIおよびGCIフェローシップの取り組みに賛同し、LucyさんとKarinaさんの参加費用などを支援することに致しました。

支援が生徒たちを励まし、大きな希望を与える

Lucyさんは今回の参加に対し、「UWC ISAKでバックグラウンドが異なる人たちと接する中、歩み寄りながら協力して進歩していくことを学び、世界には希望があると感じています。GCIフェローシップでは、更に多くの異なる考え方を知るとともに、新しいアイデアの実現法を考え、実際にプロジェクトを立ち上げて、変化を生み出していくといったリーダーとしてのスキルを身に付けていきたいと考えています。今回の支援は私たちの人生に大きな影響を与えるもので、自分たちを支援し励ましてくれる方がいると信じられることは、本当に素晴らしいことだと思います」と語ってくれました。

Karinaさんは、「UWC ISAKでは、才能にあふれた素晴らしい仲間たちに驚かされており、GCIフェローシップでも、高い目標を掲げ大志を抱いている若いフェローたちとの新しい出会いに期待しています。みんなと一緒に情熱を傾けて能力やスキルを習得し、実際、世の中に対してどのような影響を及ぼすことができるのか、今からとても楽しみです。また今回の支援により、関心を示すだけでなく実際に行動を起こしていただける組織があるということを知り、大きな希望が生まれました」と熱い思いを話してくれました。

小林りん氏からも「生徒に世界トップクラスのチャンスを与えてあげるためには援助が必要です。支援のお話を伺った時、“大変な幸運に恵まれた”という思いでいっぱいになりました。心から感謝申し上げます」というお礼の言葉をいただきました。

これからもIIBCは、グローバル人材育成プログラムを通じ、未来への希望を抱く若い学生の支援を続けてまいります。



GCIフェローシップに参加するLucy Dabbsさん（右）とKarina Brunella Tipismana Urbanoさん（左）



多様なバックグラウンドを持つ学生が学ぶUWC ISAK



UWC ISAK 代表理事の小林りん氏 ◎トヨサキジュン

※1 国際バカロレア機構：国際的な教育プログラムの作成や、国際的に認められる大学入学資格（国際バカロレア）の授与などを実施している。

※2 GCI：2011年にアメリカで設立された特定非営利活動法人。桑名由美氏が代表を務め、多言語を話して多文化を理解し、道徳心が高くかつ賢明なる判断を有する人（グローバル・シティズン）の育成を目指している。

グローバル化する社会のニーズに備え 学びの輪を広げ医療英語のスキルを高める

医療英語を学び続けたいという 声が高まりMELSAを結成

異国の地での病気やケガは最も困ることの1つです。立場を変えて考えると、日本語をあまり話すことができない外国人が日本の医療機関を訪れた時の不安や戸惑いを、理解することができます。

そのような中、特定非営利活動法人医療英語学習支援協会 (Medical English Learning Support Association: 以下、MELSA) では、参加者を募り医療英語・英会話について学んでいます。結成されたのは2013年のこと。きっかけは、厚生労働省の求職者支援制度を利用して、民間の教育訓練機関で医療英語を学んでいた受講者の間で、「受講期間終了後も引き続き学び続けたい」という声が高まったことにありました。その時、同教育訓練機関で講師を務め、医療について博士(保健学)の学位を有する大森厚子さんも、有志の方々と一緒にMELSAの活動を始めることになりました。

現在MELSAでは、飯田橋(東京都)、横浜・湘南藤沢(神奈川県)、札幌(北海道)の4会場で講座を開講しています。

参加者の学習経験に合わせて 演習を行うレッススタイル

MELSAの主な活動は、各会場で毎月開講している「医療英語・英会話」ミニレッスンです。2018年は、医療機関を受診する際の様子、例えば受付や会計、診察・検査・手術・入院・救急外来などで必要な英会話と、解剖学・生理学・病理学分野の基礎知識や専門用語の英語表現を学習しました。また2019年は、内科系や外科系の様々な疾患に関する医療英語を学んでいます。講師は代表の大森さんご自身が務めています。

「レッスン中は、ペアワークを含め参加者の発話量を多くするようにしています。医療英語の学習経験が長い方は、英語の会話文を日本語に、日本語の会話文を英語に訳す演習をさせますし、初回参加や学習経験の浅い方は、英文の読み合わせでロールプレイ演習をするなど、臨機応変に皆さんが楽しんで学習しています」と、大森さんは話します。



MELSA代表の大森厚子さん

レッスンには医療関係者はもちろんのこと、医療業界以外の方も多く参加しています。中には、自治体の予防接種の会場で通訳を担当す



講師として、整形外科の医師である尾崎大也さんを招き行った、スペシャルセミナーの様子

るなど、勉強した成果を医療通訳ボランティアに生かしている方もいます。また外国人向けの不動産会社で働いている方は、契約者から病気や病院に関する相談を受けた時にきちんと対応できるように、MELSAで勉強しているそうです。

招へい講師による スペシャルセミナーを開催

MELSAでは、ミニレッスンのほか第一線で活躍している医師や薬剤師、医療通訳者などを講師に招いたスペシャルセミナーも、月に1回程度開催しています。これは、講師ご自身の専門分野を中心としたテーマを自由に設定していただき、講演やグループワークなどを行ってもらおうというものです。講師陣とのネットワークは、大森さんが学会やシンポジウム、セミナーなどに足を運び、MELSAの活動にご理解・ご協力をいただけた方々に直接お声掛けをすることで、築き上げています。

医療英語や医療通訳の重要性が、今後もますます高まっていくことが予想される中、大森さんは、スタッフや参加者の協力の下、MELSA設立当初の有志の方々の志と取り組みが実を結び、日本社会の中で医療英語・英会話の学習の輪が大きく広がっていくことを願い、日々活動に取り組まれています。



セミナーの締めくくりとして、英文をネイティブスピーカーが読み上げ、受講者が復唱しました

■ IIBC ENGLISH CAFÉ 2019 (東京)を開催

「ホビングリッシュ (Hobblinglish)」で楽しく英語を学ぶ



ホビングリッシュ「ENGLISH x 日本酒講座」の様子

多くの場で英語でコミュニケーションを行う機会が身近になっていますが、英語に対して苦手意識を持っている人がまだまだ多いのも現実です。

そこでIIBCは、楽しみながら、実用的な英語を学び、実際に話すことができるIIBC ENGLISH CAFÉ 2019 (東京)を開催しました。日本酒やトラベルなどといった趣味や好きなことをしながら英語を学ぶ「ホビングリッシュ[※]」の6つの講座や、2人のゲストをお招きした「SPECIAL NIGHT TALK」を実施。

IIBC公式サイトでは、開催レポートを掲載しています。

https://www.iibc-global.org/iibc/activity/englishcafe/report2019_01.html



参加者からは、「勉強になり、周りの参加者の方から刺激を受けた」などの声をいただきました。

※「Hobby (趣味)」と「English (英語)」を合わせた造語

実施プログラム一覧

■ ホビングリッシュ

株式会社ウィーの協力を得て、趣味や好きなことを通して英語を楽しく学ぶ6つの講座を開催しました。

- 日本酒講座
- スマホカメラ講座
- ビジネス会食講座
- おもてなし講座
- トラベル講座 (NY編)
- カクテル講座

■ SPECIAL NIGHT TALK

国内外で活躍するゲストに、英語学習に対してモチベーションを向上する方法など、参加者の学習に関する悩みにお答えいただきました。

- テーマ：「Facebook社で唯一英語が話せなかった私がゼロから始めたビジネス英語」

Supershipホールディングス株式会社 代表取締役社長CEO 森岡 康一氏

- テーマ：「忙しいビジネスパーソンでも効果の出る英語学習法」

『The Japan Times Alpha』編集長 高橋 敏之氏

■ 第11回IIBCエッセイコンテスト

「私を変えた身近な異文化体験」をテーマに募集



今年も全国の高校生を対象にした「第11回IIBCエッセイコンテスト」を開催します。

異なる文化や価値観を持つ人々と分かり合う大切さを見つめ、考えてほしいという思いを込め、昨年に引き続き、テーマを「私を変えた身近な異文化体験」としました。

外国人だけに限らず、身近な家族や友人とのコミュニケーションなどで感じた、相手と異なる価値観や異文化に触れて、自

身に生じた変化や今後どう成長していきたいかなどを、英語で表現していただきます。

最優秀賞・優秀賞・優良賞受賞者には、副賞として海外短期派遣プログラムを贈呈。ご応募をお待ちしております。

エッセイライティングワークショップ開催!

本コンテスト参加予定の高校生を主な対象者として、英文エッセイの書き方を学ぶワークショップを開催! 日本語の作文とは異なるルールを学び、より読み手に伝わるエッセイを目指します。

【大阪】

日時：2019年7月29日(月)

10:30 ~ 17:00

会場：一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会 会議室
大阪府大阪市中央区博労町
3-6-1 御堂筋エスジービル

【東京】

日時：2019年7月31日(水)

10:00 ~ 16:30

会場：一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会 会議室
東京都千代田区永田町2-14-2
山王グランドビル

■ 第11回IIBCエッセイコンテスト 募集概要

主催：一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会

後援：米国大使館 協賛：一般社団法人 日米協会

応募資格：日本の国公立高等学校、高等専門学校(1~3年)及び中等教育学校(4~6年)に在学する生徒

使用言語：英語

応募作品：エッセイ 501語以上700語未満

応募期間：2019年6月3日(月)~9月5日(木)17時まで

表彰：最優秀賞1名、優秀賞1名、優良賞1名、特別賞5名、日米協会会長賞3名

エッセイコンテスト、ワークショップの詳細はIIBC公式サイトをご確認ください。

<https://www.iibc-global.org/iibc/activity/essay.html>

IIBC公式サイトでは、過去の受賞者インタビューなども掲載しています。

<https://www.iibc-global.org/iibc/activity/essay/interview.html>

実践的な英語力育成の取組事例を紹介

近年、グローバル社会で活躍する人材を育成するため、企業から大学、大学から高校へと求められる英語力のレベルが高まっています。そのような中、3月21日、赤坂インターシティコンファレンス（東京）にて、「生徒の将来につながる英語教育とは」をテーマに、高校英語教員向けセミナーを開催しました。

同セミナーでは、明治大学国際連携機構の横川綾子特任准教授と、静岡県立静岡城北高等学校国際科の西田大教諭のお2人がTOEIC® Programを効果的に活用して実践的な英語力を育成する、教育現場での取組事例を紹介しました。



セミナー風景。真剣に聞き入る参加された先生方

アセスメントとしての品質の良さが 信頼性と汎用性を高める

グローバル人材の育成に注力する明治大学では、留学奨励助成金といった資金援助や、英語力強化プログラムを設けるなど、充実した支援制度を整備しています。海外留学生数も右肩上がりが増加し、2018年度には2,141人が留学しました。

そのような中、同大学ではTOEIC® Programを活用した取り組みも行っています。例えば、10学部中9学部の新入生はTOEIC® Listening & Reading Test（以下、TOEIC® L&R）の受験が必須で、スコアを入学段階でのプレースメントテスト（レベル分けテスト）などに活用しています。そのほか在学生に対しても、語学プログラムの応募要件などにも利用しているため、TOEIC® L&R団体特別受験制度を、ほぼ毎月、いずれかのキャンパスで実施。受験者数は年間で約15,000人に上り、2020年度からは、TOEIC® Speaking & Writing Tests（以下、TOEIC® S&W）の学内実施が開始される予定です。また政治経済学部では、2017年度から、TOEIC® L&Rなどをはじめとする外国語検定試験のスコアを利用した、グローバル型特別入学試験も導入しています。

横川氏は、「TOEIC® Programは、入学時の英語力を正確に把握できるだけでなく、平均スコアの経年変化を比較・分析することが可能な客観的指標であり、アセスメントとしての品質が保証されています。それがスコアの信頼性へと結び付き、汎用性が高いものになっているのです。しかも学習者が自分の習熟度を把握して管理できるため、モチベーションアップにもつながります」と、明治大学で活用している理由について語られました。

良質な英文のインプットが 実践的な英語力育成のカギとなる

一方、バランスのとれた英語の4技能向上を目指している静岡県立静岡城北高校の国際科では、今春卒業した生徒の模擬試験の英語の偏差値を57.9（1年生1学期）から64.1（2年生3学期）に、TOEIC® L&Rの平均スコアをおよそ2年間で244点引き上げるなど、英語力の向上に成功しています。

西田氏はその要因を「音読の徹底、予習から復習重視への転換、そして何より、TOEIC® Programを活用した授業を実践したことが大きな要因です」と振り返ります。

TOEIC® Programを活用した理由について西田氏は、「私自身、プログラムを使って英語力を伸ばした経験があるとともに、ここ数年、企業だけでなく大学においてもTOEIC® Programの高スコアが求められています。最近では、その流れがよいよ高校にもきていると実感するようになりました。また、TOEIC® Programに使われている英語は、実生活の中で実用性の高い、高校生にも有益なものです。しかもスコアの評価が正当なため、生徒のモチベーションを上げることにつながります」と語られました。

具体的な活用法として、例えばペアを組んで行う、TOEIC® L&Rの公式問題集にある会話問題の音読があります。お互いの会話文を読むのかを決め各パートを音読したり、1人が日本語訳を読み、もう1人がそれを英語で音読するなど、1つの会話文を様々な方法で音読し文章をインプットしていきます。

一方、投影された写真を見ながらペアで話し合う、TOEIC® Speaking Testにある写真描写問題を活用した方法もあります。音読でインプットした英文をアウトプットすることで、実践的に使えるようにしていくのです。

「良質な英文を徹底的にインプットすることが肝心。それにはTOEIC® Programの公式教材が一番です」と西田氏。

TOEIC® Programを活用したこれらの授業内容を実際に体験するなど、参加された先生方にとって、生徒の将来へとつながる英語教育についてのヒントを得る、有益な機会となりました。



音読を体験し、英文のインプットに有効であることを実感した

広島県地域通訳案内士育成研修で TOEIC® Tests が応募要件に

外国人観光客が増加している広島県では、有償で質の高い通訳ガイドの育成を目的として、2019年度広島県地域通訳案内士育成研修を実施しています。

広島県地域通訳案内士となるためには、広島県が実施する「広島県地域通訳案内士育成研修」を受講する必要があります。

同研修（英語コース）への応募要件として、以下の資格のいずれかを有していることが条件となりました。

- TOEIC® Listening & Reading Test スコア 730 点以上
- TOEIC® Speaking Test スコア 130 点以上
- TOEIC® Writing Test スコア 140 点以上

● 広島県地域通訳案内士制度の概要については、以下をご確認ください。

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/78/hirosimatuyaku3012-3104.html>

● 語学要件や研修内容については、広島県地域通訳案内士育成等計画 (PDF) 内に記載がございます。

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/uploaded/attachment/346390.pdf>

公開テストスケジュール

TOEIC® Listening & Reading Test



回数	試験日	申込期間 ^{※1}	結果発送予定日
第242回	2019年 7月28日(日)	2019年 5月17日(金) ~ 2019年 6月18日(火)	2019年 8月27日(火)
第243回	2019年 9月29日(日)	2019年 6月21日(金) ~ 2019年 8月 6日(火)	2019年 10月29日(火)
第244回	2019年 10月27日(日)	2019年 8月 9日(金) ~ 2019年 9月10日(火)	2019年 11月26日(火)
第245回	2019年 11月24日(日)	2019年 9月13日(金) ~ 2019年 10月 8日(火)	2019年 12月24日(火)
第246回	2019年 12月15日(日)	2019年 10月11日(金) ~ 2019年 10月29日(火)	2020年 1月14日(火)
第247回	2020年 1月12日(日)	2019年 11月 1日(金) ~ 2019年 11月26日(火)	2020年 2月11日(火)
第248回	2020年 3月 8日(日)	2019年 11月29日(金) ~ 2020年 1月14日(火)	2020年 4月 7日(火)

TOEIC® Speaking & Writing Tests

TOEIC® Speaking Test



試験日	申込期間 ^{※2}	結果発送予定日
2019年 7月 7日(日)	2019年 5月24日(金) ~ 2019年 6月21日(金)	2019年 8月 6日(火)
2019年 8月 4日(日)	2019年 6月21日(金) ~ 2019年 7月19日(金)	2019年 9月 3日(火)
2019年 9月 1日(日)	2019年 7月19日(金) ~ 2019年 8月16日(金)	2019年 10月 1日(火)
2019年 10月 6日(日)	2019年 8月16日(金) ~ 2019年 9月20日(金)	2019年 11月 5日(火)
2019年 11月 3日(日)	2019年 9月20日(金) ~ 2019年 10月18日(金)	2019年 12月 3日(火)
2019年 12月 1日(日)	2019年 10月18日(金) ~ 2019年 11月15日(金)	2019年 12月31日(火)

TOEIC Bridge® Listening & Reading Tests



回数	試験日	申込期間 ^{※2}	結果発送予定日
第72回	2019年 9月 1日(日)	2019年 5月13日(月) ~ 2019年 7月25日(木)	2019年 10月 4日(金)
第73回	2019年 11月17日(日)	2019年 7月29日(月) ~ 2019年 10月10日(木)	2019年 12月20日(金)
第74回	2020年 3月15日(日)	2019年 11月 5日(火) ~ 2020年 1月30日(木)	2020年 4月17日(金)

TOEIC Bridge® Speaking & Writing Tests



試験日	申込期間 ^{※2}	追加申込期間	結果発送予定日
2019年 9月 8日(日)	2019年 7月26日(金) ~ 2019年 8月23日(金)	8月26日(月) ~ 8月30日(金)	2019年10月11日(金)
2019年 11月24日(日)	2019年10月11日(金) ~ 2019年11月 8日(金)	11月11日(月) ~ 11月15日(金)	2019年12月27日(金)
2020年 3月 1日(日)	2020年 1月17日(金) ~ 2020年 2月14日(金)	2月17日(月) ~ 2月21日(金)	2020年 4月 3日(金)

* 上記は個人でお申し込みいただく際の申込期間です。団体一括試験申込期間 (TOEIC® Speaking Test を除く) は公式サイトでご確認ください。

また、公開テストスケジュールは変更されることがございますので、最新の情報は公式サイトでご確認ください。

(※1) インターネットでの申込期間です。申込開始および締切時間、コンビニ端末申込については公式サイトでご確認ください。

(※2) インターネットでの申込期間です。申込開始および締切時間は公式サイトでご確認ください。

IIBC 世界は、あなたでつながる。

一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会
The Institute for International Business Communication

IIBC 公式サイト <https://www.iibc-global.org>

【お問い合わせ】

東京 東京都千代田区永田町2-14-2 山王グランドビル TEL.03-5521-5901
名古屋事業所 愛知県名古屋市中区錦2-4-3 錦パークビル TEL.052-220-0282
大阪事業所 大阪府大阪市中央区博労町3-6-1 御堂筋エスジービル TEL.06-6258-0222

【報道関係お問い合わせ】

広報室 東京都千代田区永田町2-14-2 山王グランドビル TEL.03-3581-4761